

午後

高齢者施設から接種(28)

北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、神奈川県、富山県、福井県、岐阜県、静岡県、三重県、京都府、兵庫県、鳥取県、島根県、岡山県、愛媛県、高知県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県

一般の高齢者から接種(6)

福島県、石川県、山梨県、愛知県、滋賀県、和歌山县

施設と一般接種が混在(13)

東京都、新潟県、長野県、大阪府、奈良県、広島県、山口県、徳島県、香川県、福岡県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

今週配分されるワクチンの活用

(かうじ)内は都道府県数

接種まず高齢者施設 28道府県

高齢者向けの新型コロナウイルスワクチンの接種で、今週、都道府県に配布されるワクチンについて、28道府県で高齢者施設の入所者を優先して接種が始まることが朝日新聞の調査でわかった。一般的な高齢者の接種から始まるのは6県で、13都府県は自治体によって施設入所者と一般接種を並行して始める。ワクチンの供給量が限られる中、まずは集団感染のリスクが高い施設内感染から防ぐ地域が多くなっている。

▼31面=悩む自治体

接種の対象となる65歳以上の高齢者は、約3600万人。今週は、人口の多い東京、神奈川、大阪の3都府県に各4箱、44道府県に2箱ずつの計100箱が届く予定。1瓶から5回接種するとすれば1箱で975回分で、100箱では9万7500回分、約5万人分になる。今週届くワクチンについて、朝日新聞

は47都道府県や市区町村に配布先や接種方法を取材した。高齢者施設に分配すると回答したのは北海道、千葉、京都など28道府県に上った。「1月以降、高齢者施設でクラスター（感染者集団）の疑い例が10件以上発生している」（茨城県）などの理由が目立つた。

一般の高齢者への接種から始めるのは福島、石川、山梨、愛知、滋賀、和歌山の6県。愛知県では名古屋市中区の「80歳以上」から始める。

2月末までの10万人あたりの累計感染者数が区別で最多という。滋賀県では大津市が65歳以上を年代別に細分化し、85歳以上から接種を始めるところとした。80歳以上、75歳以上、65歳以上と段階的に進めていくという。

施設の入所者と一般の双方に振り分けるのは、東京、大阪、広島など13都府県。東京都は区部と多摩地域で高齢者市に優先配分し、接種の進め方は区市に委ねた。世田谷区は施設を優先し、八王子市は一般接種を優先した。

全国の市区町村に少なくとも1箱届くのは26日の週で、本格的な接種はその後、各地で始まる。